

# CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	株式会社テクノフレックス熊本工場第2倉	階数	地上3F		
建設地	熊本県菊池郡大津町大字高尾野字	構造	S造		
用途地域	工業地域	平均居住人員	10人		
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	4,500時間/年		
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2014年11月 予定	評価の実施日	2014年4月14日		
敷地面積	29,143 m <sup>2</sup>	作成者			
建築面積	1,169 m <sup>2</sup>	確認日	2014年4月15日		
延床面積	3,299 m <sup>2</sup>	確認者			

## 1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

環境品質 G

環境負荷 L

BEE = 1.2

38

■ BEE(環境効率) =  $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能(ランク表示)

排出率

**100%**

## 2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

【重点事項4】 循環型社会の実現

評価点

**76**

■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

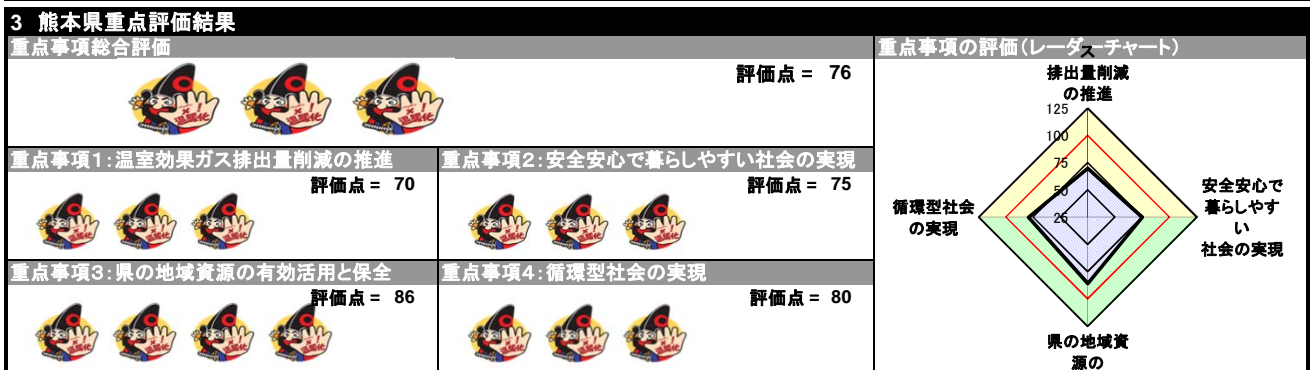
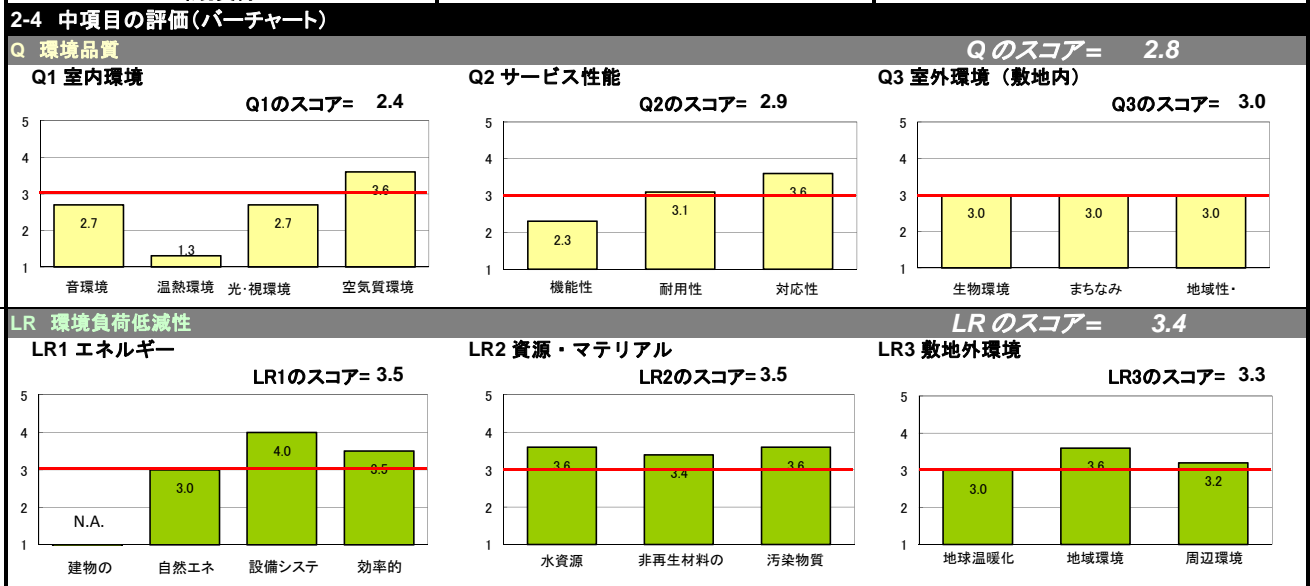
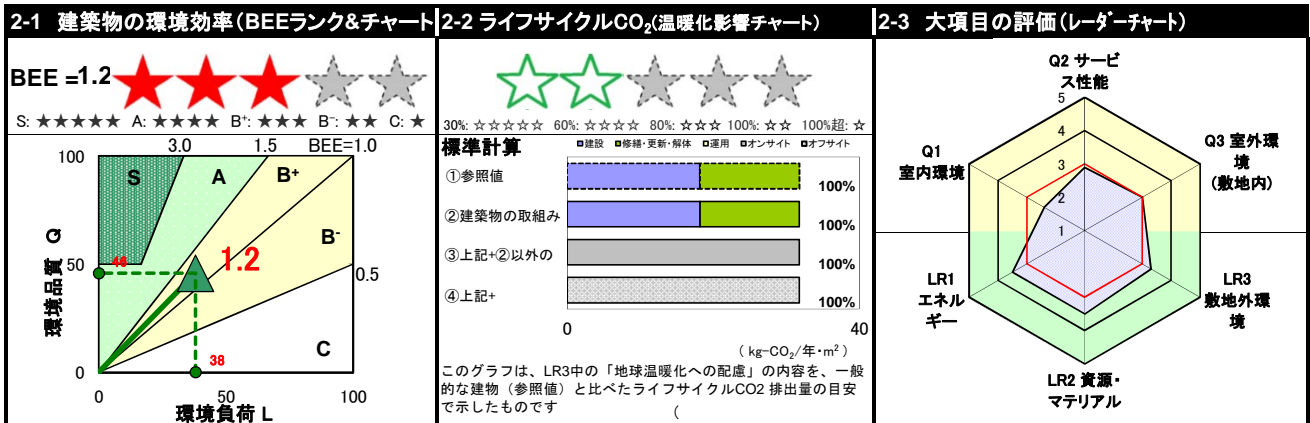
※評価点は、100点以上が推奨です。

# CASBEE®熊本《新築》【評価結果】

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2015年3月までの期間限定で使用できます。

■使用評価マニュアル：CASBEE-熊本(熊本県)2010年評価Ver.2 (BPU/BEI対応) | 使用評価ソフト：CASBEE-NCb\_2010bpi&bei(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社テカフレックス熊本工場第2倉庫	階数	地上3F
建設地	熊本県菊池郡大津町大字高尾野字	構造	S造
用途地域	工業地域	平均居住人員	10人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	4,500時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年11月 予定	評価の実施日	2014年4月14日
敷地面積	29,143 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	1,169 m <sup>2</sup>	確認日	2014年4月15日
延床面積	3,299 m <sup>2</sup>	確認者	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年追補

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版Ver.2 (BPI&BEI対応)

株式会社テクノフレックス熊本工場第2倉庫棟増築工事

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE-NCb\_2010bpi&bei()

スコアシート 実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>2.8</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.30</b>			<b>2.4</b>
<b>1 音環境</b>		<b>2.7</b>	0.15	-	-	2.7
<b>1.1 騒音</b>		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	-	-	
2 設備騒音対策		-	-	-	-	
<b>1.2 遮音</b>		<b>3.4</b>	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能	T-2	5.0	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能		1.0	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	
<b>1.3 吸音</b>		<b>1.0</b>	0.20	-	-	
<b>2 温熱環境</b>		<b>1.3</b>	0.35	-	-	1.3
<b>2.1 室温制御</b>		<b>1.7</b>	0.50	-	-	
1 室温		1.0	0.38	-	-	
2 負荷変動・過渡制御性		-	-	-	-	
3 外皮性能		1.0	0.25	-	-	
4 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	
6 種別制御		-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	
<b>2.2 湿度制御</b>		<b>1.0</b>	0.20	-	-	
<b>2.3 空調方式</b>		<b>1.0</b>	0.30	-	-	
<b>3 光・視環境</b>		<b>2.7</b>	0.25	-	-	2.7
<b>3.1 昼光利用</b>		<b>4.2</b>	0.30	-	-	
1 昼光率	昼光率: 5.4%(事務室)	5.0	0.60	-	-	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	-	-	
<b>3.2 グレア対策</b>		<b>1.0</b>	0.30	-	-	
1 照明器具のグレア		-	-	-	-	
2 昼光制御		1.0	1.00	-	-	
3 眩り込み対策		-	-	-	-	
<b>3.3 照度</b>		<b>3.0</b>	0.15	-	-	
<b>3.4 照明制御</b>		<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.6</b>	0.25	-	-	3.6
<b>4.1 発生源対策</b>		<b>4.0</b>	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆以上	4.0	1.00	-	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	
<b>4.2 換気</b>		<b>2.6</b>	0.30	-	-	
1 換気量	0.091 > 0.067(1/15)(事務室)	3.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能		4.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.33	-	-	
4 給気計画		-	-	-	-	
<b>4.3 運用管理</b>		<b>4.0</b>	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御	建物内禁煙	5.0	0.50	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30	-	-	2.9
<b>1 機能性</b>		<b>2.3</b>	0.40	-	-	2.3
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>		<b>2.0</b>	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		3.0	0.50	-	-	
2 高度情報通信設備対応		1.0	0.50	-	-	
3 バリアフリー計画		-	-	-	-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>		<b>2.0</b>	0.30	-	-	
1 広さ感・景観	事務室天井高2.8m	4.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース		1.0	0.33	-	-	
3 内装計画		1.0	0.33	-	-	
<b>1.3 維持管理</b>		<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.1</b>	0.31	-	-	3.1
<b>2.1 耐震・免震</b>		<b>3.0</b>	0.48	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>		<b>3.0</b>	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	B以上使用、E不使用	5.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-	

2.3 適切な更新						
2.4 信頼性			3.4	0.19	-	-
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-
2	給排水・衛生設備	節水型機器、工場水を冷却水や消火補給水に利用	4.0	0.20	-	-
3	電気設備	非常用発電設備(既存工場棟)、地上設置	4.0	0.20	-	-
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-
3 対応性・更新性			3.6	0.29	-	3.6
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31	-	-
1	階高のゆとり	階高:4.0m以上	5.0	0.60	-	-
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.15	4.0	0.40	-	-
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	-	-
3.3 設備の更新性			3.4	0.38	-	-
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-
3	電気配線の更新性	構造材、仕上材を痛めずに修繕・更新できる	5.0	0.11	-	-
4	通信配線の更新性	構造材、仕上材を痛めずに修繕・更新できる	5.0	0.11	-	-
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	3.0
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	3.5
1 建物の熱負荷抑制			-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.29	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-
3 設備システムの高効率化		高効率設備	4.0	0.43	-	4.0
		集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)	4.0		-	-
		集合住宅の評価	3.0		-	-
4 効率的運用			3.5	0.29	-	3.5
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-
4.2	運用管理体制	環境方針の制定	4.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	3.5
1 水資源保護			3.6	0.15	-	3.6
1.1	節水	節水型機器	4.0	0.40	-	-
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.3	0.60	-	-
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-
2	雑排水等利用システム導入の有無	冷却水を循環し、再利用	4.0	0.33	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.63	-	3.4
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.25	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.21	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	再生クラシャラン	3.0	0.21	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	分別しやすく、交錯しない	5.0	0.25	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.22	-	3.6
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.68	-	-
1	消火剤		-	-	-	-
2	発泡剤(断熱材等)	発砲系断熱材使用なし	5.0	0.50	-	-
3	冷媒		3.0	0.50	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	3.3
1 地球温暖化への配慮			3.0	0.33	-	3.0
2 地域環境への配慮			3.6	0.33	-	3.6
2.1	大気汚染防止	電気温水器	5.0	0.25	-	-
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.6	0.25	-	-
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-
3	交通負荷抑制		3.0	0.33	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制	敷地内に分別ゴミ置場設置、回収・有価物の減量化計画	5.0	0.33	-	-
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-
1	騒音		3.0	1.00	-	-
2	振動		-	-	-	-
3	悪臭		-	-	-	-
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの過半を満足	5.0	0.70	-	-
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-

# CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

## 4 設計上の配慮事項

### 総合

本工場は中核工業団地内に位置しており、地域環境も良好な場所となっている。近隣環境や近隣施設と調和した施設を維持するために緑化や増築施設の外観の色彩にも配慮する。

### Q1 室内環境

倉庫ではあるが換気の為の吸排気用の開口部等を多く設置した。

### Q2 サービス性能

車輛の移動に伴う破損等が生じない様に場外の車両回転スペースの確保、屋内の柱脚、腰壁の保護を行う。

### Q3 室外環境（敷地内）

緑豊かな周辺環境に馴染むように敷地内にも極力植栽を行い緑地の確保に努める。

### LR1 エネルギー

LED照明器具等の採用によるエネルギーの高効率化に努める。

### LR2 資源・マテリアル

外構工事に伴う砕石等に再生材料を使用する。

### LR3 敷地外環境

建物の色彩を地域に馴染む様に配色した。

### その他

## 熊本市重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 株式会社テクノフレックス熊本工場第2倉庫棟増築工事

■評価ソフト: CASBEE-Ncb\_2010\_kmt2011(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本市重点評価結果				総合評価点		76.0
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				70	0.40	28.00
Q1-2.1.3	外皮性能	1.0	0.10			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.10			
Q1-3.2.2	昼光制御	1.0	0.10			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	0.0	0.00			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				75	0.20	15.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	0.0	0.00			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.33			
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.20			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.27			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.20			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				85.7	0.20	17.14
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.29			
LR2-1.1	節水	4.0	0.43			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.29			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.00			
④ 循環型社会の実現				79.5	0.20	15.90
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.0	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

## ■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

## ◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和  
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

## ◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20  
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数